

当事者からの発表①

「私とバドミントン」

パラバドミントン選手
福岡県 藤野 遼

私は先天性脳性麻痺により右上下肢マヒ、18歳で初めての発作、20歳でてんかんと診断されてから、服薬管理をしながら、大学の商学部の勉強と部活のバドミントンと両立しています。大学4年生までバドミントンを続けているのは、2020年に東京パラリンピックに出場するためです。バドミントンが東京パラリンピックの種目になりました。

小学1年生から始めたバドミントンで東京パラリンピックを目指せるなんて夢のようです。小学、中学、高校、大学とバドミントン歴は15年以上ですが、いまだ自分のプレイには納得できていません。試合や練習後、思い通りのプレイができなくて悔しい思いばかりです。パラリンピックで金メダルを取るためには精神力、体力、技術、体調管理まだまだ甘いところがあります。あと2年間で、メダルを取るため日々努力していきたいと思います。去年は、日本障がい者バドミントン連盟の強化選手として、3年ぶりに国際大会に出場しました。9月に開催された東京国際大会でシングルスに出場し、銅メダルを獲得できました。しかし、10月のアメリカ大会でてんかんの薬を飲み忘れ、ホテルに到着してすぐ発作を起こしてしまいました。女子シングルスと混合ダブルスを棄権することになりました。その後予定していた世界選手権やアジアユースパラとすべての大会に参加させてもらえませんでした。今年1月の平成30年度強化選手選考会にも出場させてもらえず、強化指定選手からも外され、今年は国際大会にも出場できなくなりました。国際大会や強化合宿に参加できなかったことで、落ち込んでいました。学業も授業が難しく感じ、記憶力にも問題があり、4年生までに思うように単位が取れていません。学業とバドミントンの両立が苦しくなり、大学をやめようかと考えました。しかし、主治医の赤松先生から励まされ、大学に私のてんかんの説明をしていただき、福岡大学の笹川先生にも個別に指導していただき、学業に専念できました。大学の部活も練習が楽しくなり、大学最後の試合を11月に出場する予定です。

来春の卒業は厳しいですが、来年前期で卒業が見込めそうなので卒論の準備もしている所です。赤松先生、大学の笹川先生、てんかん協会や、一緒にバドミントンをしている仲間に恵まれて支えていただいています。バドミントンの練習も大学や、母校の若葉高校、専属コーチに指導を受けています。私の生活は、まず薬を飲み、大学で授業、バドミントンの練習と寝ることだけです。食生活にも気を付けています。炭酸や甘いものを食べず、母からは私の嫌いな青魚料理を食べさせられています。けがをしない体づくりにも気を付けています、唯一、私の心を癒してくれるのは、7歳のチワワのたまちゃんです。練習から家に帰ってくると、しっぽを思い切り振って迎えてくれます。今は、徹底した服薬管理をしています。昨年アメリカ大会以後、薬のおみ忘れはなく、発作も起こしていません。最後に、必ず、東京パラリンピックに出場したいと思います。皆様にいい結果が報告できるよう一日一日、パラリンピックへの出場を目指し、頑張っていきたいと思います。皆様のご声援をよろしくお願いいたします。